

令和5年度 学校評価

(1) 自己評価結果等

重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動</li> <li>保護者及び地域のニーズを踏まえた積極的な情報発信</li> <li>校内及び地域における特別支援教育を推進していくための教員の資質及び専門性の向上</li> <li>南海トラフ地震を想定した具体的(現実的)な対応策の検証(保護者との連携)</li> <li>道徳教育の推進</li> </ul>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	教育活動の充実	<p>児童の発達段階に応じた教育活動の充実</p> <p>本校で作成したツールを積極的に活用してアセスメントや指導計画の作成を行い、客観的な根拠のある指導の手だてを考え、実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画作成の際に8割以上の職員が「日常生活指導段階表」や「校外学習モデル」などのツールを活用することができた。</li> <li>学年会等で、授業の内容について話し合い、必要に応じて専門性の高い職員からのアドバイスを参考にしながら、担任を中心に児童の指導・支援の方法について共通理解を図ることができた。</li> <li>校外学習のねらいに沿った事前学習を十分に行い、校外学習当日につなげることができた。実施後は、学年ごとに時期や回数、内容などの見直しを行った。</li> </ul>
	専門性の向上及び安全管理	<p>障害特性に応じた指導における専門性の向上及びけがや事故の防止、緊急時の対応力の向上</p> <p>けがや事故をできるだけ未然に防ぐための取組を検討したり、緊急時にスムーズに対応できるように流れの確認したりする機会を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で児童の障害特性を考慮し、安全に過ごせるように、教室の環境整備を行い、必要に応じて見直し・改善を行った。児童が活動しやすい環境を整えることができた。</li> <li>けがや事故が起こった際は、速やかに保健室でけが等の状態確認を行うことができた。再発防止のために、学年で情報を共有し、原因の追究及び対応の検討を行った。</li> <li>小学部内で搜索訓練を実施し、職員の対応力を高めるとともに、搜索の流れや職員同士で声をかけ合うことなどの注意点について確認することができた。</li> </ul>
中学部	キャリア教育の充実	<p>生活単元学習の見直し</p> <p>生活単元学習の指導段階表の作成に努め、学習年間指導計画にキャリアに関する項目や校外学習等を適切に配置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活単元学習の単元において、キャリアの視点を取り入れた段階的な目標を設定することができた。また、教科の偏りを洗い出したことで、各教科等のバランスを考えた見直しをすることができた。</li> <li>校外学習の行き先や活動内容については、生活単元学習と総合的な学習の時間で扱う内容を整理することができた。</li> </ul>
	専門性の向上	<p>自立活動における支援方法の充実</p> <p>自立活動に関する研修会等の機会を活用して外部専門家の意見を基に支援方法を改善し、支援前後の生徒の変容や効果等について検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導経験の浅い職員でも、経験豊富な職員から授業展開の仕方や教材・教具の使い方のレクチャーを受けると、安心して指導・支援に当たることができた。</li> <li>専門家から得た指導事例を参考に、部内で指導方法等の内容を共有し、指導の場面で専門家のアドバイスを取り入れたことで、生徒の行動の意味や思いの理解につながり、職員意識を変えるきっかけとなった。</li> </ul>
高等部	生徒指導における専門性の向上	<p>生徒の発達段階や障害特性に応じた生徒指導の在り方の検証</p> <p>「生徒心得」の改訂に取り組み、より効果的な生徒指導の在り方を検討する。</p> <p>外部専門家等を積極的に活用し、生徒や保護者、職員を対象とした研修や勉強会を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒心得」について生徒会役員へアンケートを実施し、生徒の要望を集約した。</li> <li>生徒指導上の課題を整理し、道徳教育と関連付けて検討を行い、来年度の指導計画の準備を整えた。</li> <li>外部講師を招き、生徒及び保護者を対象とした研修会を実施した。親子で性や情報モラルについて考える機会を提供することができた。</li> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、地域の関係機関と支援会議を行うなど、組織的に生徒の支援を行い、連携体制を構築することができた。</li> </ul>
	地域とのつながりに関する情報発信	<p>地域資源の積極的な活用と情報発信</p> <p>地域資源との交流を継続しつつ、さらにつながりを深めたり広げたりしながら、ホームページや新聞等で積極的に情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンサービス班による近隣施設での清掃活動や農園芸班による近隣保育園、特別支援学校との交流などを行い、地域とのつながりを深めることができた。</li> <li>今年度新たに校区の高等学校と作業製品の展示や学校紹介、部活動での合同練習などの交流を行うことができ、本校学校祭にて交流の様子を展示して、保護者に観てもらえる機会を設けることができた。</li> <li>近隣企業からの依頼で「オリジナル紙コップ」のデザイン画を文化部の生徒が制作した。制作依頼の際、授業見学を通して本校の取組を知っていただく機会を設けることができた。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	保護者への情報発信	より参加しやすいPTA活動の事業計画と内容の精選 PTA役員会の人数及び回数を見直しを行い、より参加しやすい方法を考える。 事業に関する情報発信を積極的に行うとともにPTA便りやホームページ等で活動を伝える。 PTA事業内容について保護者のニーズを把握し事業計画を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の要望が多かった、PTA施設等見学会を9月に、給食試食会を11月に行った。申し込み多数で抽選を行い、卒業後の施設や給食について保護者に知っていただくよい機会となった。PTA活動に関する希望調査を行い、集約したものを2月のPTA役員会で提案した。</li> <li>PTAバザーについては、メール配信とポスターの掲示したことで昨年度より多数の参加があり、売上が多くなった。保護者の余暇活動についてのアンケートを実施し、もちのきPTA便り特別号で、アンケート結果を保護者に伝えることができた。</li> </ul>
	教育計画 教育課程	教育支援計画等の活用方法のマニュアル化、情報発信 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務に関する業務を一括化し、教務部のしおりを作成する。</li> <li>道徳教育に関する意識を高め、各教科、領域の学習指導年間計画に関連付ける。</li> <li>年間の諸帳簿や成績等の提出時期をスケジュール表として作成した。担任等がどの時期から何にとりかかれればよいか見直しをもてるようにした。</li> <li>諸帳簿作成に関する表記について、よくある誤記や望ましい表記を一覧に追加した。また、語句の検索方法等を周知した。</li> <li>各校務で保護者に配付している文書の内容で重複している箇所の精選を行ったことで、紙文書がスリム化し、主務者の負担軽減につながった。</li> <li>各教科等を合わせた指導の学習指導年間計画に道徳の「四つの視点」を表示する枠を設け、道徳を意識した目標であることを分かりやすくした。</li> </ul>
教育情報	情報化推進	授業での児童生徒用タブレット端末の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践の共有を行い、児童生徒用タブレット端末の活用力の向上を図る。</li> <li>校内電子掲示板での呼びかけや教材整理の時間を設定したことで、学習プリントを中心に校内サーバの保存データ数が増加した。また、teamsを使ったiPad教材の共有も進み、教科や小学部を中心に活用されるようになった。</li> </ul>
	ネットワークシステムの整備	新校務支援システムの運用に向けた整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>新校務支援システムの運用に向け、各分掌と協力しながら整備を進める。</li> <li>新校務支援システムの稼働に必要な最低限のデータ入力は概ね完了し、システム内での出席簿入力と印刷ができるようになった。職員への伝達講習を行い、システムの初期設定と出席簿の入出力の手順を周知し、活用できるよう整備を進めることができた。</li> </ul>
研修	校内研修	専門性向上のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員のニーズや課題を把握し、研修計画を充実させる。</li> <li>情報発信や申し込みのサポートを強化し、校外の研修に参加しやすい環境を整える。</li> <li>年度当初に計画した現職研修や夏季自主研修に加え、生活指導部と連携し、いじめに関する研修を実施した。また、教職員へのアンケート等でニーズや課題を把握し、次年度の研修計画立案に向けて検討を進めることができた。</li> <li>研修情報を校内電子掲示板で発信するとともに、職員室内に研修用掲示板を新たに設けた。校外、総合教育センター、免許取得関係に分けて掲示を行うことで、研修情報を整理して発信することができた。</li> <li>教員サポートシステムに関するマニュアルを作成し、必要などに閲覧できるようにしたことで、スムーズに申し込みできるようになった。</li> </ul>
	安全指導	防災計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震、火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施する。</li> <li>計6回の避難訓練を行い、児童生徒の安全行動や避難行動の定着を図った。引き渡し訓練では、毎年実施する中で、正しい避難行動の共通理解を図ることができつつあり、当日は特に大きなトラブルなく実施できた。</li> <li>事前に保護者にアンケートを提出していただき、個別懇談で担当が保護者に動線を確認して情報を共有した。</li> <li>ポータブル電源やテント等、必要な防災用品を精査・検討し、防災マニュアルの充実を図った。今後も引き続き行っていく。</li> </ul>
進路指導	専門性の向上	社会的ニーズの校内への般化	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的ニーズを各学部で周知し、各教科や作業学習へ般化させ、授業改善を図る。</li> <li>作業学習のしおりを作成して周知したことで、教師が作業学習の目標やねらいを共通理解しながら授業に般化することができた。福祉事業所や企業からのニーズを反映して実習日誌などの改善を行った。</li> <li>福祉事業所や企業からの配布文書を回覧したり、校内電子掲示板で発信したりしたことで、キャリア教育に対する教師の意識や理解度が高まり、アンケートの結果が改善した。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健体育 学校保健 学校給食	けがの予防 食育の推進(全 体計画の活用に向 けて)	けがの防止として児 童生徒・職員の意識改 革と情報発信を行う。  全体計画の実用化に 向けて、評価の仕方な ど検討をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けにラジオ体操を利用して動かす体の部位や筋肉が見てわかる動画を作成した。職員に向けて定期的にけがの発生状況や原因、予防について周知し、注意喚起を行った。また、ヒヤリハット用紙を変更し、用紙を配付したことで多くの情報をまとめ、発信することができた。</li> <li>食育全体計画のチームを立ち上げたことで各部の実態を踏まえた話し合いができ、目標などより各部に合った全体計画の作成ができた。年間計画の食育マークから多くの事例の取り出しをすることができ、食育事例の一覧を充実させることができた。</li> </ul>
相談支援 校内支援 地域支援	教員の資質及び 専門性の向上	児童生徒の実態把握 に基づいた支援につ いての研修会や事例検 討会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の教職員が必要とする教材の情報とともに、実施した研修の様子や概要を自立活動だよりに掲載し、ホームページで閲覧できるようにした。</li> <li>外部専門家活用事業では、多様な分野の専門家に依頼し、より多くの教職員が利用できるように当初の計画に新たな研修機会を追加し、実施した。教職員が積極的に利用し、支援に活用することができた。</li> <li>本校及び半田特別支援学校との情報交換を行ったことで、地域及び特別支援学校の教職員のニーズをまとめ、研修計画の準備ができた。</li> </ul>
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた支援・指導の充実を図り、きめ細やかな教育を行うことができた。</li> <li>積極的な情報発信を意識した取組を進めたが、保護者及び地域のニーズに応え切れていない部分がある。内容や情報量、スピード感など改善を図りたい。</li> <li>防災物品の充実やマニュアルの見直しなど、激甚災害への具体的な対応策について改善を図ることができた。</li> </ul>

## (2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部・中学部・高等部の一貫性を踏まえ、発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育</li> <li>防災、防犯に関する取組への評価</li> <li>保護者アンケートの分析結果を踏まえた最終評価</li> </ul>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートから、全体的に満足度は上昇した。</li> <li>ホームページなどの発信と進路情報については、満足度にかんがりの上昇がみられ、全体の平均に近づくことができた。しかし、地域との連携の発信については「分からない」との回答が多くあり、課題が残った。</li> </ul>
今後の改善方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページへの保護者の関心が高いため、さらに教育活動や地域等との連携の発信を心がける。</li> <li>防災、防犯等のマニュアルを整備し、保護者にも周知する。</li> </ul>
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近のニュースを踏まえると不審者対策を強化する必要がある。</li> <li>研究成果の校内での共有と保護者へのフィードバックが大切である。</li> <li>デュアル実習は、体験することでさまざまな選択肢が増え、自己決定につながるよい実践である。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成：学校評議員、PTA役員</li> <li>時期：6月及び2月(評議員会、関係者評価委員会)</li> </ul>